

Adonis アドニス [ふくじゅ草]



北海道看護協会 北網支部ニュース
2017年3月 編集責任者：中西 真由美

北網支部で行われた支部担当研修と小規模病院等施設間交流研修のレポートを紹介します。
また、会員入会率向上を目指し、看護協会への入会募集ポスターを支部で作成し配布しました。

研修 Report

支部担当研修「基礎から学ぶフィジカルアセスメント」
9月3日(土) 北見赤十字病院 大会議室
講師：弥富 祐樹

フィジカルアセスメント研修会に参加して

丸玉産業株式会社 津別病院 土屋 希美

看護経験5年目、日々の業務でフィジカルアセスメントは「いまさら聞けないな」と感じる事が多い分野であったため参加させていただきました。

研修では、フィジカルアセスメントのゴールは「伝わる」ことであること、呼吸の観察の大切さ、必ず2つ以上のバイタサインを合わせてアセスメントすることなどを学びました。また、重症度・緊急性のアセスメントするための的確な問診の仕方や、体型に合わせた心電図モニターの貼り方なども興味深い内容でした。

グループワークは、事例に基づいた実践につながる内容であると共に、他の病院スタッフとの交流の機会にもなりました。研修全体を通し、ユーモアあふれる講師の方の雰囲気により、とてもリラックスして臨むことができました。結果、講義内容の記憶や学びに至ったと感じます。

学んだ内容は翌日の業務から実践することができ、救急対応にも生かすことができたと思います。参加して本当に良かったと思っています。



(事例に基づいたグループワーク)



(フィジカルアセスメント演習)

研修 Report

「小規模病院等施設間交流研修」に参加して
～病院・訪問看護ステーション研修の参加レポート～

小規模施設交流を終え

小清水赤十字病院 小山 尚子



9月28日、道立向陽ヶ丘病院にて他に2名の方と施設研修をさせていただきました。

最初に副看護総師長さんから向陽ヶ丘病院が地域に行っている作業療法の説明を受け、北網地域で精神疾患をもつ方々の生活に重要な役割を持っていることを学ぶことができました。6月から建物が新しくなりとても綺麗で作業療法の設備も整っていました。私は精神科病院の実習経験がないので建物を案内して頂いている間、施設が嚴重である事が驚きでした。病棟研修では身体拘束具や保護室の見学、異食、点滴自己抜針予防の為にルートは毎日刺し換えていること等の説明を受けたり、ベッド備え付けのセンサーや

ひとつのベッドに数種類のセンサー、もし、転んでしまった時の安全への配慮が尽くされていること等の説明を受けました。また、水分補給にも力を入れているとの説明を受けました。たった1日の研修でしたが振り返ると学びの多い研修でした。研修担当の皆様お忙しい中、ありがとうございました。



施設間交流を終えての感想

北見赤十字病院 藤田 紳二



私は今回、北見西部地域訪問看護ステーションで、2日間の施設間交流研修を行いました。まず施設の概要や介護保険制度についての説明を受けたり、個人宅や施設への訪問に同行させていただき、実際の訪問看護の様子を見せていただきました。

普段病棟で働いていて、食事や入浴、消灯など、ある程度時間や行動が決まっており、患者様に病院のスケジュールに合わせて生活していただいていることを日々感じていました。しかし、訪問看護では、利用者様の生活がまず中心にあり、そこに看護師が介入しているという印象を受けました。

そういった在宅での環境は、病院ほど規則正

しく、清潔で設備のそろった環境ではないかもしれませんが、その人らしさを前面に出せる環境であり、その中で利用者様方は持てる力を最大限に生かした生活をし、とても生き生きとしているように感じました。病棟でも、その人のできることを大切に、よりその人らしく生きることができるよう関わっていきたいと思いました。

